

2024年(令和6年)
8月21日 水曜日
第1954号

京都自動車新聞



京高安 空気圧重点に啓発活動
京整振 検査用スキャンツール届出
京都ダイハツ 長岡京市で安全運転講習
京整商 会館内で移転 37番窓口に
アラポリ 夏祭りで顧客もてなす

2
5
6
8
7

発行所 京都自動車新聞社 京都市伏見区竹田向代町51-5(京都自動車会館内) 電話(075)672-0552 ファクス(075)682-0205 メール access@kyotojidoshu-np.jp

平島会長、宮本副会長が会見

交渉「運賃、高速代、サーチャージ」3本建て 京ト協

京都府トラック協会(平島竜二会長)は7月18日、定例記者会見を開き、平島会長と宮本昌季副会長が物流の2024年問題に関する今後の対応について、京ト協独自のアンケートを近畿トラック協会(平島会長)として8月末に実施した後、コンサルタントを交え結果分析した上で、年内に近畿全体で第2弾のアンケートを行う考えを示した。宮本副会長は「24年問題の一番の問題は標準的な運賃が収支できていないこと。今後、運賃に加え、燃料サーチャージ、高速道路通行料金の3本建てで交渉していきたいかなければならない」と強調する。

運賃アップも給与には反映されず

京ト協では会員事業所 流革新2025プロジェクトの24年問題に対する取り組みを支援するため、物



平島会長



宮本副会長

組みを支援するため、物(長)を4月に発足させ、全会員(1093社)にアンケートを送付、411社から回答が寄せられた。宮本「23の設問中、労働時間と運賃が重要視されていた。7割超が運賃交渉し、値上げ幅では5〜10%が多く、全くアップしなかった会員もみられた。一方、運賃が上昇してもドライバーの給与に反映されていないことも判明した。車両価格、オイル、タイヤといった資材高騰の影響で厳しい経営状況が浮き彫りになった形だ」

京ト協で取り組んだアンケートを近畿全体に広げ、回答数を増やすことで精度を高め、事業者が抱える問題をより明確化。8月末で取りまとめ、有識者やコンサルと共に結果を精査し、25年に向けて取り組むべき方向性を定める。宮本「数値化した内容は全日本トラック協会(坂本克己会長)に提言。24年問題に対応する際に障害になっているところを近畿から発信していきたい」

3次、4次下請けからの脱却必要

2023年6月の総会で会長に就任した平島氏。1年目は安全・安心・安泰の3Aを掲げ、適正化事業指導員の巡回指導でD(悪い)・E(大変悪い)評価の事業所の底上げに注力。その結果、24年3月末時点で1333件だったD・E事業所が1年間で7件(京都運輸支局対応分除く)まで減らすことができた。

2年目は6月の総会でH・K・T25(標準的な運賃の収支・改善基準告示の厳守・多重下請け構造からの脱却)の方針を発信している。平島「巡回指導については、D・E評価がゼロになるよう引き続き指導員に頑張ってもらいたい。標準的な運賃がもたらさないため、改善基準告示を守るのが難しくなっている。アンケート結果

パートナリシップ構築宣言ふやす

平島会長はこれからの新たな取り組みとしてパートナリシップ構築宣言の普及を挙げる。同宣言には、事業者が

を踏まえ全ト協に提言していく。多重下請け構造からの脱却については2次下請けまで制限が設けられる方向だ。今年の支部総会に出席した際、3次、4次の仕事をしっかりとらなければならない」と

ら良いか相談を受けた。極力2次までに入れるよう交渉してほしいと伝えられた。3次、4次だけの事業者は経営が成り立たなくなる。標準的な運賃を基にせよ交渉してもらいたい」

平島「トラック協会として会員事業所が宣言できるようなサポートしていきたい。京都府内では現在、15社が宣言しているが、まだまだ少ないため、宣言企業を増やしていく」

たい。次回アンケートでは(標準的な運賃が)収受できているかーに加えて、現行の運賃水準からどれだけ離れているのかも確認したい。

運賃に深夜料金設定しつかり訴え

標準的な運賃について、平島会長は一番困っているのは長距離輸送を手掛ける事業者と説明する。改善基準告示で定められている拘束時間、休憩時間などを考慮しなければならぬが、4時間ごとに30分の休憩を取りながら運行、1日の休憩時間連続9時間以上11時間以内の厳守」を履行しようとしても荷主企業立場が強く、理解が進まないのが現状だ。平島「長距離輸送は深夜運行が多いものの、深夜運行に深夜料金という設定はない。本来なら午後10時から午前5時までは別途深夜料金を設定するべきではないだろうか。特に取引適正化に向けた重点課題に①価格決定方式②型管理などのコスト負担③手形などの支払い条件④知的財産・ノウハウ⑤働き方改革等に伴うしわ寄せ」の五つを挙げる。

近畿2府4県といったも広く、地域性も考慮しながら分析、まとめていく。標準的な運賃がもたらせていければ良い方向に進むと思われ」

3本建てで請求するのが望ましい。大手企業は予算の関係で変動する燃料サーチャージは嫌がる傾向がある。24年問題が取り沙汰されるようになり、燃料サーチャージに対する理解は得られるようになってきたが、最近の新規案件についてはこの3本建てで交渉しているものの、3本建てはなかなか認められていないのが実情だ」

平島「トラック協会としてもコストはしっかりとらう」というスタンスで、3本建てを全面的に推し進める」

追跡データベース

倒産数、増加傾向続く

4月の負債額1000万円以上の全国企業倒産件数は、前年同月比28.3%増の783件と25カ月連続で前年同月を上回る。増加率は今年最大の伸び。うち、京都の倒産件数は22件。東京商工リサーチが5月10日に発表した。

倒産した企業のすべてが中小で、従業員数10人未満が全体の88.1%を占めた。産業別では金融・保険業と農・林・漁・鉱業を除く全産業で倒産件数が前年同月を上回った。

産業	倒産件数	
	4月	前年同月比(増率)
農・林・漁・鉱業	3	▲62.5%
建設業	146	8.95%
製造業	100	29.8%
卸売業	97	46.9%
小売業	80	33.3%
金融・保険業	4	0%
不動産業	23	21.0%
運輸業	33	37.5%
情報通信業	33	22.2%
サービス業ほか	264	38.2%
合計	783	28.3%

ブロードリーフの新しいクラウドはじまる

らくらく導入、かんたん操作。『日常業務の効率化』をサポート!

- PC、タブレット、スマホ対応
- 必要な機能を自由に組み合わせ
- 月額契約のサブスク対応

顧客・車両・履歴管理 | 伝票作成業務 | 顧客アプローチ業務

株式会社ブロードリーフ www.broadleaf.co.jp
〒612-8418 京都市伏見区竹田向代町51-5 京都自動車会館5F
TEL 075-661-1050 FAX 075-661-1051